



中L研だより



令和5年度 3月号 (No. 5) 発行 LD等支援教育研究会

2月6日(火)に冬季研修会を行いました

今回は「通常学級における指導困難な生徒の見立てと支援」というテーマで、インシデントプロセス法を用いた事例検討と京都教育大学総合教育臨床センター学びサポート室の鈴木英太先生よりご講演いただきました。



インシデントプロセス法とは

実際に起こった出来事をもとに参加者が事例提供者に質問をすることで情報を収集し、それを心理・社会（環境）・生物（発達特性）的要因にそれぞれ分類して解決すべき問題点を見出し、支援策を考えていく方法です。ここで扱う情報は事実のみで、推測した事柄は扱いません。

今回は、花山中学校の通級担当黒田未葉先生から事例を提供頂きました



事例検討では、事例提供者からの情報を基に、グループに分かれて議論しました。様々な立場や経験からの意見があり、どのグループも活発な議論となりました。3つの要因に分ける難しさを感じつつも情報が整理され、具体的にねらいが明確な支援策を考えられるメリットを感じました。

京都教育大学の鈴木英太先生のご講演では、アセスメントや支援を考える上でのポイントと学校における特別支援教育の充実についてお話いただきました。

- ・子どもを見立てて支援を考える際には**生得的な特性と環境面を切り分けて考えることが重要**で、特性を変えることはできないため、**環境面にアプローチ**して状態を変化させていく必要がある
- ・達成可能なゴールを設定し、具体的な支援策を立てて実行する。ゴールも介入も「本人はどうしたいのか」という視点を忘れずにみんなで共有していく！



- ・指導者間で失敗を認められる環境を作っておくことも大事である
- ・本人の特性理解や個へのアプローチだけではなく、**授業改善や校内体制を整えること、校外との連携、教員自身の well-being が子どもたちの well-being につながる**

今年度も中L研の活動にご協力頂き、大変ありがとうございました。来年度も特別支援教育の更なる推進を目指して研さんに取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。